



中央中だより

<第2号>



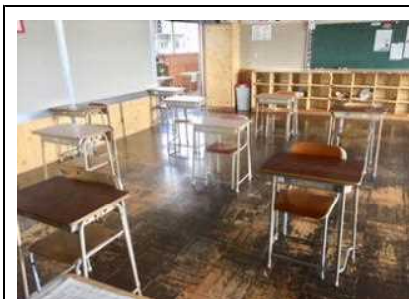
分散登校で学校再開しました！！

5月30日に群馬県の警戒度が2（県の社会経済活動再開に向けたガイドライン行動基準）に引き下げられたことにより、桐生市でも分散登校が始まりました。学校再開については、先日お配りした「6月1日からの学校再開について」の通知や各学年から学年通信等でお知らせしておりますが、当面3週間は、慣らし期間として、学校生活への適応と「新しい生活様式」を意識した生活ができるようにすることを中心に週3日間の登校から始め、段階的に進めていきます。中央中では、桐生市の「学校再開に向けたガイドライン（改訂版）」をもとに、3密を避け、基本的な感染防止対策を徹底するよう様々な対策を講じて、子どもたちが安全に安心して登校できるよう努めてまいります。

<感染防止対策の取組例>



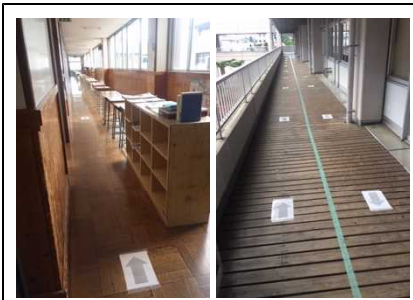
○登校時、玄関で健康観察表のチェックと検温を行います。



○教室内は、机の間隔を十分にとります。



○換気のため教室の前後のドアは、はずしました。



○廊下は、一方通行で接触を避けます。



○流しでの密を防ぐため、水道は1つおき、待ち位置に目印を付けました。



○教室をはじめ、校内は掲示物で「新しい生活様式」を意識できるようにしています。

そのほか、校内はもちろん各教室に消毒液を設置しこまめに消毒を行ったり、休み時間は、教員が交代で生徒の様子を見守り密にならないよう指導したりしていきます。また、感染防止対策とともに、長い臨時休業が明け、早く学校生活に適応できるよう生徒の心のケアやいじめや偏見等の防止にも、全教職員で協力して取り組んでいきます。各ご家庭でもご協力いただきたいことがありますので、よろしくお願いいたします。

桐生市の「学校再開に向けたガイドライン（改訂版）」は、桐生市のHPに掲載されておりますのでご確認ください。

【TOPページ→新型コロナウイルス感染症関連情報<感染症拡大防止のための対策>⇒幼稚園・小中学校・商業高校の再開について<幼稚園・学校の再開等>⇒桐生市立学校再開に向けたガイドライン（改訂版）】

ご家庭への協力をお願い

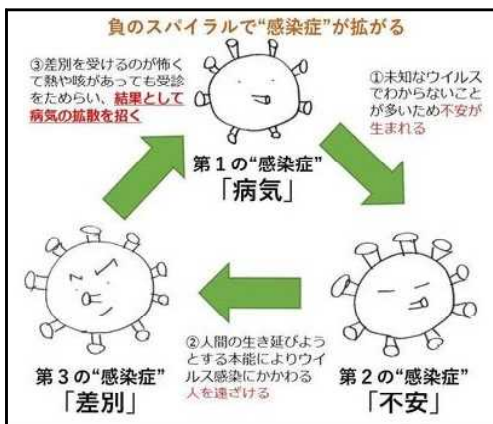
<登校時>

- 毎朝検温し、健康状態を「健康観察表」に記入し、サイン又は捺印をお願いします。
- 体温が高い（37度以上又は、平熱+0.5度以上）、風邪症状等がある場合は、登校せないてください。
- 家族の健康状態にも気をつけ、発熱や風邪症状があるなど、体調の悪い家族がいる場合は、学校に相談の上、生徒の登校も控えさせていただきます。
- ハンカチやタオル、ナプキン（給食再開後）など洗濯したものを毎日必ず持たせてください。
- 登校時からマスクを持参・着用させていただきます。なお、布マスクを使用する場合には、必ず洗濯済のものを使用してください。
- 換気のため窓を開けることが多くなることや熱中症のリスクを考え、気温等によって調整できる服装を準備してください。
- 熱中症対策とともに、水道での混雑を避けるため、水筒を持参させていただきます。

<家庭生活の中で>

- 帰宅した後は必ず石けんで手洗いするなど、家庭でも手洗い、咳エチケットなど「新しい生活様式」を実践してください。
 - 適度な運動、適切な睡眠時間、バランスのよい食事で抵抗力を高められるようにしてください。
 - 当面の間は、外出の際、換気の悪い密閉空間、多くの人が密集する場所、近距離での会話や発声がある場所等を、できる限り避けるようにしてください。
- ※ 何かご心配のことがございましたら、学校へ相談してください。よろしくお願いします。

感染症の3つの顔



「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」 ～負のスパイラルを断ち切るために～（日本赤十字社より）

この感染症には3つの顔があると言われています。

第1の感染症は「病気」です。

①未知なウイルスでわからないことが多いため不安が生まれます。それが第2の感染症「不安と恐れ」です。

②人は生き延びようとする本能によりウイルス感染にかかわる人を遠ざけます。

これが第3の感染症「嫌悪・偏見・差別」です。

③そうすると差別を受けるのが怖くて熱や咳があっても受診をためらい、結果としてさらなる病気の拡散を招いてしまいます。

では、このような状況を作り出さないために私たちはどう行動したらよいでしょうか。

- ◇「病気」を防ぐために …… ①手洗い、②咳エチケット、③人混みを避ける等、行動様式を自分のためだけでなく、周りの人のためにもすることが大切です。
- ◇「不安や恐れ」で冷静さを失わないために …… 悪い情報ばかり見すぎないこと、不確かな情報を鵜呑みにしないこと、話を大げさに捉えて怯えないこと、そのために①気づく力、②聴く力、③自分を支える力の3つを高めて、正しく理解し、適切に行動することが大切です。
- ◇「嫌悪・偏見・差別」で信頼関係や社会のつながりを壊さないために …… 非難や差別の原因は「過剰な防衛本能」だと気づくことです。ウイルスという見えない敵への不安から、特定の見える対象を敵とみなして嫌悪の対象としてしまい、差別することで「つかの間の安心感」を得たがるのです。この思考の恐ろしさは、真実がすり替わってしまい、本当の敵が見えなくなってしまうことです。今医療に従事している人など、この事態に対応しているすべての方々へ「ねぎらい」や「敬意」を払いましょうという取組が世界各地で行われています。

私たち一人一人が、自分の立場でできることを実践し、みんなが一つになって、感染症による負の連鎖を断ち切っていきましょう。

<文責 蜂須賀 直樹>